

## みどりの土台を作り広げる

代表 坂場 光雄

5月も下旬に入り、立夏を過ぎた。今年の日本の気象は暑さ寒さの変動が大きく、季節の花の開花が早めである。つい先日まで気候不順の影響で、野菜の高騰が続いていた。

マリでの気候変動では、雨が少なければ干ばつを引き起こし、多ければ農地の冠水や日干しレンガの家屋の倒壊などの被害を引き起こす。

雨季は苗木生育によい季節である。雨が降らない5月はバマコでも気温が40℃近くなり、体力的に厳しいが、6月になると、徐々に雨が多くなり、気温も下がってくる。天水農業の村では耕地の耕起や作付けで忙しくなる。

苗木は村人が忙しくない時期、村人がそろっている時期に植えたいという声もある。しかし植える本数は一人数本である。家畜は耕作が始まると、つながれて飼育され、食害も軽減される。ただ、ちょうど家畜の子供が生まれる時期であり、それが離されて食害を受けることがある。村人がそろってから植えるということで、苗木をまとめて預けた村では結局植えられず放置され、枯れてしまった例がある。

ということで個人に数本を渡して、それぞれ植えて育てている。小さい苗木は家畜の被害もある。柵のある菜園への苗木植栽は、うまくいっている例が多い。家族がもらった苗木を集めて、畑に植える村人もいる。しかし乾季になり、収穫が終わると家畜を放すことになる。そして大きくなりきれなかった苗木は被害を受けることになる。

多くの失敗もあるが、苗木配布を繰り返すことで、村人が植えた樹木は少しずつ生長している。



生育した果樹スンスン(カバコ)



菜園周囲のユーカリ(テニャンブゲー)

2018年もまた2か月間のマリでの現地活動を予定している。苗木配布と植林でみどりの土台を作り広げていきたい。

【坂場派遣スケジュール】 6月1日成田発→8日1日帰国予定

## マハマドゥ・トラオレの現地報告 里山再生の実践・始動!!

昨年10月榎本が帰国してから、マリ人スタッフのトラオレさんは、日本人に代わり里山再生の研修者へのサポートをしてくれています。

毎回の出張で報告書を書いてくれるので、活動が手に取るようになります。彼の撮った写真と共にその活動の一部を紹介します。(榎本 肇)

### 街の女性が買い付けに…

カソマブグー村のバーバ・ジャラさんは、3年前に研修を受け、翌年にもう一度技術研修を受けたいと再研修し、自身の畑で里山再生活動をしています。昨年はこれまでの倍の面積に広げ、ユーカリなどを育てています。

また、彼の畑に自生していたズィズィフィスに改良種を接ぎ、すでに多くの実を収穫しています。太い台木であったため、接いだ改良種もすぐに大きくなり、初年度のシーズンにも少し収穫があったほどでした。

そんな彼のズィズィフィスの実を近くの街の市場で販売しようと、街に住む女性が買い付けに来ました。バーバさんは昨年のシーズンにはズィズィフィスの実だけで400,000CFA(84,000円)の売上がありました。



街の女性に500CFA/袋で実を出荷

### まずは苗木の育苗から…

昨年は3カ村9名の村人が研修に臨みました。そのうち1カ村3名は去年からの再研修組です。新規研修組はまず来雨期に向けた育苗の準備に取り掛かりました。



イースト空き袋ポットに苗を鉢上げ

11月に敷地の脇や菜園内にサヘルから供与した金網で各自柵を作ります。気温が上がる3月頃から平播き床に種子を播き、4月に育った稚苗をミネラルウォーターやイースト袋をリサイクルしたポットに鉢上げします。こうして育苗した苗木は雨期に入り地面が湿ったところで、里山に植え付けられます。

### マリ生活点描



マリには伐採禁止の樹木がいくつかある。畑に残されるシアバターノキもその一つ。倒木や枯死木なら問題ない。しかし最近、その取り決めも反故になっているように見える。材木を買うお金がないからと言うが…。(榎本肇)

## 会員総会が開かれました

(3月25日)

今年も3月25日(日)に東京市ヶ谷のJICA地球ひろばにて、日本人スタッフ・榎本肇の活動報告会の後、会員総会が開催されました。

報告会&総会 タイムスケジュール

14:00~15:30 現地活動報告会

15:30~17:30 総会

17:30~19:30 懇親会

総会では、現地活動について今年の活動を継続するとともに、地域苗畑主や研修者たちと里山再生に取り組んでいくと説明がありました。国内活動では、例年の活動に加え、昨年設立30周年を記念して行われた、イベント「マリ感謝祭」や機関紙サヘル100号記念号発行などが報告されました。

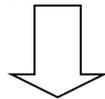
会計については、決算・予算が説明され、監事より監査報告がされました。

最後に、総会直前の追加でお知らせをしましたが、2018年10月に施行される改正NPO法(特定非営利活動促進法)に関連した定款の変更について、以下のような変更が総会にて承認されました。ご確認ください。

(\*下線部分が今回変更された箇所)

### <定款の変更>

(旧) 第24条(公示の方法) 本会の公示は、会の掲示板に掲示するとともに官報に掲載して行う。



(新) 第24条(公示の方法) 本会の公示は、会の掲示板に掲示するとともに官報に掲載して行う。  
ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、内閣府NPO法人ポータルサイト(法人入力情報欄)に掲載して行う

## 総会の出欠ハガキが届いた Q&A

毎年総会の出欠ハガキに多くの会員の方々からメッセージが寄せられ、スタッフ一同いつも励まされています。

今年はその中でもいくつかの質問がありましたので、それらにお答えします。

**Q** (サヘル植林で)地域の気候に何らかの変化が観測されますか?

神奈川県 Sさん

**A** 今活動しているファナの試験地では、アリ塚の脇にアカシア・セネガルというマメ科の木を植えています。既に8年経過している木もあり、高さ2~3mに成長し四方に枝を伸ばしています。50m以上離れた幹線道路からもアカシアの林が確認できるほどです。

一帯は雨期になると草が生えてきます。アカシアの林ができたことで、風雨の移動も変わり、草丈が年々高くなっているように観察できます。木が生長したことにより、微気象が変わったのかもしれませんが。



生長したアカシアと根元の草本

**Q** 現地の貨幣価値はどれくらいですか?

奈良県 Sさん

**A** マリの通貨のセーファーフラン(CFA)は、西アフリカの旧仏植民地諸国8か国の共通通貨です。ユーロに対して固定レート(1ユーロ=655.957 CFA)になっています。

円との換算レートは現在 0.21 円/CFA です。

その他生活用品の物価は、バケツ 1 本 250CFA (52 円)、砂糖 (グラニュー糖) 1 キロ 600CFA (126 円)、バナナ 1kg600CFA (126 円)、コメ (マリ産) 1 キロ 450CFA (95 円)、ガソリン 1 リットル 714CFA (150 円) などです。

**Q** 果実のなる木は何種類くらい植林されていますか？

**A** 現在、マリ南部 3 地域で配布している果樹は、マンゴー、グアバ、パパイヤ、ズィズィフィス (インドナツメ) 改良種、スンスン (シャカトウ)、ザクロの 6 種類です。果樹の他に実がなる樹木としては、カシューナットノキ、バオバブなどがあります。



スンスン (左) とズィズィフィス改良種 (右)

**Q** 支払手数料 (送金手数料) は、一回どれくらい必要なのですか？

**A** マリへ日本人が常駐していた時は銀行口座間の海外送金を行っていましたが、現在は個人送金サービスを使って、マリ人スタッフへ送金しています。

マリへの送金は 25 万円が上限で手数料は 4,480 円です。

**Q** 現地スタッフを育てる努力をしてみえるのに大賛成ですが、とても大変なこととも思います。

発足当初から見れば、現地ではいくらか人が育っているのでしょうか？

京都府 Y さん

**A** これまで多くの村で活動を行ってきました。活動当初のファギビンヌ湖では一緒に活動を進める中でワーカーからスタッフに昇格し、その後日本人がいなくても活動が続けられるほどの技術者集団に成長しました。

また、トンプクトゥなどでも、会と共に植林を始めた村人の何人かは、サヘルの森の支援が無くなっても、自身で苗木を育て植林を続けていると聞きます。

しかし残念ながら、マリ北部では治安などの事情で会自体が活動を続けることができなくなっているのが残念です。



樹を植え続けるトンプクトゥ近郊の村人 (2009)

現在の活動地・ファナ地域では、数年前から篤農家である村人を何人か選び、地域で先駆的な技術を持つ地域苗畑主のところで、植林や果樹栽培技術、土地の利用法などを学ぶ研修を行っています。その後自身の所有する里山で植林や果樹栽培などを始めています。

将来的には地域の里山再生活動の中心的な役割を担ってくれればと考えています。

## 東京クラシッククラブ 馬主クラブで取り組んでいること

三成 拓也 (会員番号 1572 番)

長年放置され、化石の様にその存在を忘れ去られた杉林。

竹が侵入し、そこにツタが絡まり、日の差さぬ地面にはアオキやまむし草やドクダミばかりが生い茂る。

そこに人の手が入ることで、森に光が入り、今まで土の中で眠っていた種子が目覚めます。

両側を山で挟まれた調整池には、100羽あまりの緋色も鮮やかなオシドリ達が、きらめく日の光に紛れて見える。

山の斜面のクヌギ林にはカブトムシやクワガタが潜み、どこからかオオタカの鳴き声が聞こえてくる…が、人にその姿を見せることはない。

木立を透かして、野生馬さながら、数頭の馬の群れが見える。

競走馬を引退し、15haの放牧地で、余生を自由に生きる馬達だ。対岸のゴルファー達を尻目に優雅に草を喰んでいる。

これが、私がイメージする東京クラシッククラブの未来の姿。

ゴルフの起源は諸説ある。

その昔、スコットランドの牧場で、牧童達がヒッコリーの枝で石ころを打って、ウサギの穴に入れて遊んだという説が好きだ。

現に、羊の群れが放牧されていたり、カナダでは野生のカリブーが出てきたり、フロリダではワニが (!) 出てくるようなゴルフ場も世界には、少なくない。

環境破壊のイメージが強いゴルフ場に私が仕事として関わるとは思ってもいなかった。

でも、実際に関わってみると、(東京クラシックのような新設ゴルフ場は特に) 世間で言われているよりも遥かに農薬等の規制は厳しく、法律上は無農薬を謳っても良いくらいだということがわかった。

そして、そこには森があり、草原があり、水辺があり、その境界線が無限のグラデーションを生み、実は、多種多様な動植物に住み処や狩り場を提供していた。

しかしながら、ゴルフ場の管理者もお客さんも、グリーンやフェアウェイには目がいくものの、周辺に取り残された森にはあまり価値を見出していないようだった。

東京クラシックには、開発中にオオタカの巣が見つかり、開発中止になった幻のコースが15haある。そこに引退馬を放牧し、馬の楽園にしようというのが、そもそもの東京クラシックに馬を導入するきっかけだった。

放牧地だけにとどまらず、オーナーの鶴の一声により、乗馬クラブや馬場もつくろうということになった。加えて、目玉として、ゴルフ場周辺の森を馬で一周できるトレッキングコースを整備しようということになった。

しかし、言うは易しで、いざやってみると大変なことだと思い知った。

周回5kmある馬道は、ゴルフの球が飛んでくることもある。

杉の枝葉は年中落っこちてくるばかりか、溝腐れの入った幹は強風の翌日には何本も折れて倒れる。台風が多い年は、全体で1000本以上もの杉が倒れた。

放牧予定地は、長年放置されていたために、太くて背の高い笹が立錐の余地もなく地面を覆っている。

始めは、一から開発に携わっていた地元業者の人達と山を切り拓き、森の整備を手伝ってもらっていたが、周辺環境やそこにすむ動植物達の住み処をつくっていくという意味では、開拓技術だけではなく、環境や生態系に詳しい人が必要だった。

そこで、サヘル森のメンバーでもある上田隆さん(会員番号1391番)に協力をお願いすることにした。

地面に落ちた枝を拾い、下草や笹を刈り、混みすぎた木を間伐し、倒木を片付け…と作業は永遠に続く。倒した木の幹は、重機で一カ所に集積してチップ屋に持って行ってもらい、枝葉は、隙を見ては燃やしていたが、消防法のからみもあり、クラシックのオーナーに頼み込んで大型の自走式のチップパーを買ってもらった。

人海戦術だけでは拉致があかないので、大型の乗用ハンマーナイフ（草刈り機）を二日間借りて、立ちはだかる笹の兵隊に突撃を繰り返し、なんとか馬道開通の目途はつけたものの、笹の切り株が馬の蹄に突き刺さる事を考えると、仕上げにはやはり刈払機が必要となる。

作業が進んだように思えても、全体から見たら、気の遠くなるような未開拓地がまだまだ残る。

そこは、いろんな意味でのフロンティア。

森に少しずつ光と風が入ってくるようになると、見られる動植物の種類も豊かになってきた。

オオタカの鳴き声も、厩舎の近くで聞こえるようになったし、調整池にはオシドリの営巣地があることもわかった。

上田さんにセンサーカメラを仕掛けてもらい、動物の生態調査もしてもらっている。

映っているのはオシドリ、バン等の鴨類、キジ、サギ、タヌキとアライグマが多く、イノシシやシカはまだ来ていないようだ。

完全メンバー制である東京クラシッククラブは、限られたメンバーのみ立ち入りを許され、ビジターは立ち入ることができないので、生態系を守る聖域（サンクチュアリ）となり得る。ゴルフ場開発者からすると目の敵であったオオタカを始め、多様な生き物の住めるゴルフ場モデルにしたいと思っている。

日本には2400ものゴルフ場があるといわれている。

森の中を馬で歩き、子ども達が裸足で遊び、バードウォッチング等自然観察をできるようにすることで、観光資源をつくるだけでなく、環境問題や生物多様性を啓蒙する場所にする事ができる。

それは、環境破壊の象徴であったゴルフ場が、周辺の森、ひいては日本の森を守る存在に生まれ変わるといふことだ。

.....  
…会員番号は整理のための数字ではない。  
会員番号にはひとつづつのドラマと息がある。今は欠番の人の思いも積み込んで、会は前に進んでいきます。(サヘルの森)

No.102 2018.7 サヘル

## ■マリ・レトルトソース作りから学ぶこと

昨年末よりマリの鍋料理のレトルト商品を作ろう！とサヘル有志+外部協力者で試行錯誤をしています。きっかけは運営委員の戸本さんの同窓生の方がレトルトや缶詰の会社を運営されていて、「マリの文化紹介としてどうか？」と戸本さんが閃いたことからこの企画が始まりました。

私も軽い気持ちで首を突っ込みましたが、簡単なことではありませんでした。今のところ、ティガダゲ（ピーナツシチュー）、ラーフォイ・マフェ（トンブクトウのオクラソース）などが候補に上がっています。

ピーナツシチューもオクラソースも西アフリカで広く食べられているものです。非常にポピュラーなだけに、国・地域・民族などによってスパイスの配合が違ったり海のものが入ったり入らなかったり、あっさりしたりこったりしたりとかなり差があり、味を決めることがとても難しいということがわかりました。それにアフリカの特徴を出そうと思うとスパイスの輸入の問題、使用（菌）の問題などが出てきました。

早く皆様に「完成しました」とお知らせしたいのですが、まだ検討中の段階です。

この企画をきっかけにアフリカの食文化について色々知識を深めることができました。例えば、世界中で料理に使われているオクラがアフリカ原産の野菜だということです。マリ国内だと、北部のトンブクトウと首都のバマコでは同じオクラソースでは全く別ものというくらい違いがありました。トンブクトウ地方はサハラ交易の影響かスパイスをふんだんに使っています。

一番驚いたのは「おじさんの髭」という別名を持つ Kabe というスパイスです。これはモロッコのヒマラヤスギの樹皮に生える苔の一種だそうです。砂漠の街の料理に対する私の偏見を払拭させる豊かなスパイス文化が垣間見えました。

日本でも家庭によって味噌汁の味が違うように、なかなか一筋縄では行きません。しかし、物騒な話題ばかりがニュースで報じられるマリの明るい話題を提供したいと思ひ、頑張っています。（原 梓）

## 国内活動(1～6月)

### <総会>

- ・3/25 2017年度サヘルの森会員総会  
(JICA 地球ひろば)

### <報告会>

- ・3/25 榎本肇 現地活動報告会  
「研修者が取り組む里山再生～活動3年  
目を迎えて」 (JICA 地球ひろば)

### <学校との関係>

- ・2/1 横浜市立浦島丘中学校  
牛乳パック回収 (390 kg、5460 円)
- ・2/7 横浜市立浦島丘中学校  
資源回収委託式出席 (アルミ缶のリサイ  
クル代金 10098 円の寄付を受ける)

### <サヘルキャラバン>

- ・5/26 サヘルキャラバン in 焼津  
(焼津市民文化会館)

### <定例活動>

- ・1/20 下谷七福神めぐりと近隣社寺
- ・2/17 東海道川崎宿と川崎大師
- ・4/21 昭島・昭和記念公園と都農林総合研  
究センター
- ・5/19 太田道灌の稲付城跡・古民家
- ・6/16 慶応大と周辺の社寺を巡る

## ■みどりとふれあうフェスティバルに出展

5月12日(土)、13日(日)に東京都千代田区の日比谷公園でみどりとふれあうフェスティバルが開催され、サヘルの森も出展しました。

1日目は天気もよく多くの来場者で賑わいました。2日目は午後から雨が降りましたが、外国人観光客の方も来場し、泥染め商品の爆買がありました。他のブースの方々とも植林や里山の話が出来、有意義な時間となりました。

(原 梓)

## ■サヘルキャラバン in 焼津

5月26日(水)に焼津市民文化会館で活動報告会(サヘルキャラバン in 焼津)を藤枝・岡部地区で里山活動している「森とチルドレン」さん達と合同で行いました。

サヘルの森からは坂場代表、榎本さん、森(律)さん、戸本が参加しました。残念ながら当日は近隣の学校の運動会や田植え等と重なった影響もあったのかもしれませんが、私たちと森とチルドレンのスタッフを合わせて13人くらいの参加で少々少なかったです。このあたりは地方での広報活動の難しさを実感しました。

しかし内容は日本の里山とアフリカの里山の話等が聞けて中々面白かったです。日本の森林は戦後住宅建材の確保目的で杉やヒノキが大量に植林されました。それまでは人の手があまり必要ない広葉樹が中心でしたが、人が面倒をみなければいけない木に転換してしまったのは皆さんご存知のことと思います。その後輸入木材に押されて国内の森林が使われなくなり、手入れもされなくなった森林が増加しています。

静岡でもその傾向は顕著で森とチルドレンの八木さんの話によれば藤枝地区の大半が人工林との報告でした。

八木さんは仕事柄(木工品の工房を経営)日常的に輸入木材を扱っているそうですが、加工したときに体調不良がよく起こったそうです。その原因が輸入木材の消毒等で薬剤処理したから木材からしみ出た物質によるシック症候群みたいなものではないかと思ひ、安全な地元産の木材を何とか利用できないかというのが里山活動は始めたきっかけだそうです。

サヘルの森はアフリカ・マリ共和国の過酷な環境化での植林や里山活動について報告しました。

一般参加の方からも活発な質疑応答がありました。ワークショップでもバオバブの苗木作りは中々の人気でした。

他団体と共同で活動報告というのは今まであまりなかったと思いますが、他の団体の活動内容や思い入れが多少は理解でき面白かったと思います。

(静岡支部 戸本喜文)

## 定例活動(7~11月)

7月以降の定例活動の予定です。坂場代表とぶらぶら散歩をご希望の方は、事前に事務局までご連絡下さい。

- 7月21日(土) 10:30 集合  
東大和公園と郷土博物館・寺社を巡る  
多摩湖南側の小丘陵緑地の里山と近隣の寺社群を訪ねます。  
西武多摩湖線・八坂駅改札
- 9月15日(土) 10:30 集合  
曳舟川親水公園とふれあい動物広場  
曳舟川親水公園となっている葛西用水跡とその周辺を訪ねます。  
JR常磐線・亀有駅改札
- 10月20日(土) 10:30 集合  
競馬博物館と多摩川親水公園、東郷寺  
競馬博物館と競艇場、川沿いの緑地を歩きます。  
京王線・東府中駅改札
- 11月17日(土) 10:30 集合  
荒川ふるさと館と水再生センター  
荒川・水との共生施設と江戸の史跡を歩きます。  
JR常磐線・南千住駅改札

## サヘルキャンプ

会員交流、自然観察、技術研修等を目的として実施しています。

マリで里山再生を進めているので、日本の里山を歩き、比較しながら、学習したいと思います。今回のサヘルキャンプは里山歩きと里山交流館での座談会がメインです。  
\*内容が変更になることもありますので、参加希望者は、事前に事務局までご連絡下さい。

- 8月18日(土)  
場所：町田市里山交流館など  
集合：小田急線・小田急多摩センター駅西口 9:30  
持物：長袖シャツ、帽子、飲料水、虫除け剤、タオルなど  
費用：参加費 500円(保険、資料代) + バス代(実費 500円程度) + 昼食代(弁当持参 or 里山交流館食堂でも購入可能)

## 七夕募金のお願い



夏季恒例の七夕募金へのご協力をお願いいたします。短冊には平和への願いを込めたいと思います。同封の振り込み用紙をご利用下さい。

## 苗木募金で里山再生

2004年から始まった里山再生プロジェクトでは、苗木募金への御協力もお願いしています。

苗木募金は一口2千円から受け付けています。マリで1本の木を植えて育てていくためには、スタッフの派遣費用も含めておおよそ2千円の資金が必要となるためです。(なお、募金の際は「苗木募金」と明記下さい)

### 会費納入にご協力ください

NPO法人『サヘルの森』はサハラ砂漠の南縁サヘル地域において植林活動を行う市民団体です。会員には機関誌『サヘル』が届きます。お申し込みは、郵便振替で下記の口座に会費をお振込みください。

- ・一般会員 年 5,000円
- ・維持会員 年 20,000円

#### 特定非営利活動法人 サヘルの森

住所：〒194-0013 東京都町田市原町田 1-2-3  
アーベイン平本 403 (榊エコプラン内)  
TEL:042-721-1601 (留守電対応)  
FAX:042-721-1704  
郵便振替口座:00170-6-115054

HP:<http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>  
BLOG:<http://sahelnomor.exblog.jp/>  
E-mail:[sahel-no-mori@jca.apc.org](mailto:sahel-no-mori@jca.apc.org)

\*\*\*\*\*

機関誌『サヘル』No.102 2018年7月3日発行

発行人:坂場光雄 / 編集:高津佳史

\*\*\*\*\*